

別紙（事後評価書）

令和2年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

通し 番号	4	事業区分： 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業 助成対象団体名： 公益財団法人兵庫県芸術文化協会 兵庫県立芸術文化センター 施設名： 兵庫県立芸術文化センター
<p>助成対象活動に関する評価</p> <p>（妥当性）</p> <p>阪神・淡路大震災からの「心の復興・文化の復興」のシンボルとして設置された兵庫県立芸術文化センターのミッションである「舞台芸術を通じて人とまちを元気にする」と事業計画との整合性は明確であり、事業が適正に組み立てられていると認められた。</p> <p>また、地域の特性・ニーズとホールの特性を生かした「ひょうご舞台芸術魅力拡充事業」を実施し、高い集客率によって周辺の街のにぎわいづくりを継続しており、事業計画において、計画に必要な構成要素が有機的に連関している。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業の中止・延期や規模縮小を余儀なくされたこともあったが、3年間の助成期間で見ると、概ね事業が推進されたことが認められた。</p> <p>（有効性）</p> <p>当該ホールの目標は、開館から続く高水準の「実績の『安定・継続』」である。佐渡裕芸術監督によるプロデュースオペラの質の高い創造芸術の発信をはじめ、多くのファンを呼び込む多彩な舞台芸術を展開して、高い集客力による運営実績を示した。その背景には、劇場を支える6万人を超える先行予約会員によるチケット購買力がある。また、リーズナブルな料金による親しみやすく、幅広いニーズに応える公演を継続して企画・実施し、裾野の拡大にも努めた。更に、アカデミー機能を持つ専属管弦楽団の育成、若手アーティストの登用や県内外のホールとのネットワーク事業、連携なども積極的に行った。</p> <p>また、年間主催公演数、ホール稼働日数やプロデュースオペラの公演数は高い実績を残すとともに、新しいファンや県外からの観客なども高い入場率を維持しており、集客力の高さも認められた。規模の大きな事業のみならず、劇場の構造や機構などを紹介するバックステージツアーも実施し、異なる角度から興味を持つ新たなファンの獲得にも努めた。更に、劇場周辺の地元企業や商店街などと協働しての夏祭りやクリスマス野外イベント開催により「劇場を核としたまちのにぎわい」を創出し、「芸術文化を通じた地域創生の推進」に努めた。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、臨時休館による事業数の減少などもあり、毎年約50万人を維持していた公演入場者数が大幅減（約12万人／年）となるなど、目標の達成には至らなかった。しかしながら、インターネット配信も含め、万全の感染症対策を講じて開催した事業は、観客が舞台芸術に触れる機会を積極的に提供した。</p> <p>以上のことから、継続した実演芸術の水準向上と観客の鑑賞機会の創出・拡大が安定的に実現しており、アウトカムの発現が認められた。</p> <p>（効率性）</p> <p>事業はほぼ計画通り実施されており、事業期間は適切であったと認められた。</p>		

別紙（事後評価書）

また、事業費については要望時の予算額と報告時の実績額とを比較すると、一部の費目に増減があったものの、ほぼ計画通り執行されており、適切であったと認められた。

（創造性）

「舞台芸術を通じて人とまちを元気にする」として、開館以来継続して行われてきた佐渡裕芸術監督によるプロデュースオペラにおいては、国内外の第一級の出演者やスタッフ、機能的に優れた本格的な大型舞台劇場を使用し、国際水準の舞台芸術を創造・発信しており、独創性・先導性が認められた。令和2年度は、開館15周年を記念してイタリア・オペラの名作「プッチーニ作曲『ラ・ボエーム』」全8公演を企画した。アカデミー賞受賞のイタリア人スタッフなどによる新演出と外国人歌手による優れた歌唱力によって、国内外に大きなプレゼンスを示そうとしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2年後に延期となった。しかしながら、事業内容を変更してオペラ・コンサートを企画し、観客に次年度以降への興味を継続させる努力を行った。この他にも、若手演奏家を登用しての「ワンコイン・コンサート」などの自主制作公演、「世界音楽図鑑 ワールド・ミュージック・シリーズ」や地元の文楽、能などの伝統芸能公演を企画した。外部より医療の専門スタッフを感染症対策アドバイザーに迎え、また、ソーシャル・ディスタンスを確保するために客席数の制限や規模の縮小など十分な感染防止対策を講じ、できる限り公演を実施し、県民の多くに質の高い実演芸術の鑑賞機会を創出した。

国内外オーディションで結集した多国籍の若手演奏家からなる「専属管弦楽団」は、人材育成を目標としたアカデミー要素も持ち、県内の中学生にオーケストラの鑑賞機会を提供している。また、県内劇場とのネットワーク形成やアウトリーチ活動などの多彩な活動は、地域における音楽文化の発展に寄与しており、先導性が認められた。さらに、世界的な指揮者の佐渡裕芸術監督をはじめ、劇場運営のプロフェッショナルであるゼネラルマネージャーや舞台技術スタッフを配置し、高い水準の芸術文化事業が提供可能な体制を取るとともに、芸術監督自身が普及活動にも注力している。

以上のことから、国内での評価の向上につながったと認められた。

（持続性）

組織面では、館長である県知事を中心に、芸術監督、ゼネラルマネージャーや外部から各部門のスペシャリストなどの優秀な人材確保を図っている。また、有期雇用者の中からもプロパー職員の選抜を行い、正規雇用率が引き上げられている。

財務面では、指定管理料、補助金で安定した維持管理費を確保し、各種公演への協賛金や助成金の獲得にも努力している。さらに、各ホールのネーミングライツによる資金獲得、地元企業の賛助会員拡大にも積極的であり、持続的な財務基盤の強化を図っている。

人材育成においては、管理監督職、専門人材などを中心にOJTを実施しており、OB職員の活用も行っている。外部団体とは、県内外の劇場とネットワークを形成し、巡回公演や人材スキルアップなどにも貢献している。また、職員を教育機関や講習会などの講師として派遣し、外部の人材育成にも寄与している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、外部団体との連携は限られた事業しか実施できなかったが、例年どおり、大学生に向けた劇場マネジメントと舞台機構についての講座と実践的な舞台を学べる機会を提供し、将来の劇場スタッフ育成に貢献した。更に、プロフェッショナルな演奏者を養成する専属管弦楽団は、NHK交響楽団をはじめとした21か国74楽団に129名の輩出実績が

別紙（事後評価書）

ある。これらの人材育成システムは今後のさらなる発展が期待される。

来場者については、6万人の会員を中心に高い入場率を継続しており、多くの県民の支持と期待に応じていると認められた。

以上のことから、活動が持続的に発展し、アウトカムが発現・定着すると認められた。

（総 評）

開館以来、世界的指揮者でもある佐渡裕芸術監督とプロフェッショナルなスタッフの企画力・制作力により、高機能の舞台機構を生かした高い芸術水準の新演出オペラをはじめ、多彩な公演を実現している。また、地域のニーズに対応した企画とリーズナブルな料金設定の様々な事業によって高い集客率を実現しており、大きな資産である専属管弦楽団を活用した今後の新たな事業展開にも大きな期待が持てる。

以上のことから、兵庫県立芸術文化センターの事業計画「ひょうご舞台芸術魅力拡充事業」は、妥当性、有効性、効率性、創造性、持続性において適切に進められており、我が国を代表する優れた公立劇場として、戦略的な事業計画を実行していたと認められた。

別紙（事後評価書）

【新型コロナや台風等の影響を受けたもの】

H31

事業番号 7「ワンコイン・コンサート」（一部中止）

R2

事業番号1「どんな時も歌、歌、歌！～佐渡裕のオペラで会いましょう」（オペラ「ラ・ボエーム」からの事業変更）

事業番号2「①Meet-HPAC リサイタルホールから、②オーケストラ公演の再開に向けて～ディスカッションとデモ演奏～、③PAC 2019-20 シーズンリバイバル室内楽」（兵庫芸術文化センター管弦楽団シーズン・オープニング・フェスティバルからの事業変更）

事業番号4「世界音楽図鑑 ワールド・ミュージック・シリーズ 2020」（事業中止）

事業番号5「ひょうごの民俗芸能『ひょうごのお城と民俗芸能～ぐるっと五国～』（事業中止）

事業番号6「なるほどバックステージツアー2020&芸術文化センターオープンデー」（バックステージツアー1 回のみ実施）

事業番号7「①高本一郎（リュート）ゆったりコンサート、②ワンコイン・アンコール・コンサート酒井有彩（ピアノ）、③能囃子コンサート、④ワンコイン・コンサート」（「ワンコイン・コンサート」からの事業変更）